

リーディングDXスクール事業【GIGA×指導の工夫・改善】

能美市立辰口中央小学校（石川県）

【GIGA×指導の工夫・改善】自力解決の場面でICTを活用し、個別の理解度、支援に必要な児童を見取る

①本時のねらいを達成し、つけたい力をつけるためにどんな場面でどのように端末を活用することが効果的かどうか

②個別最適な学びと協働的な学びを効果的にするための端末の活用事例【算数「三角形と四角形」】

＜考察＞

◇本時のねらい

「三角形と四角形を弁別し、三角形と四角形の構成の仕方を見いだすことができる」

◇導入時

スライドを使って様々な図形を提示→課題設定（三角形や四角形、またそうではない形を見分ける）

◇自力解決の場面（学習支援ソフト活用）

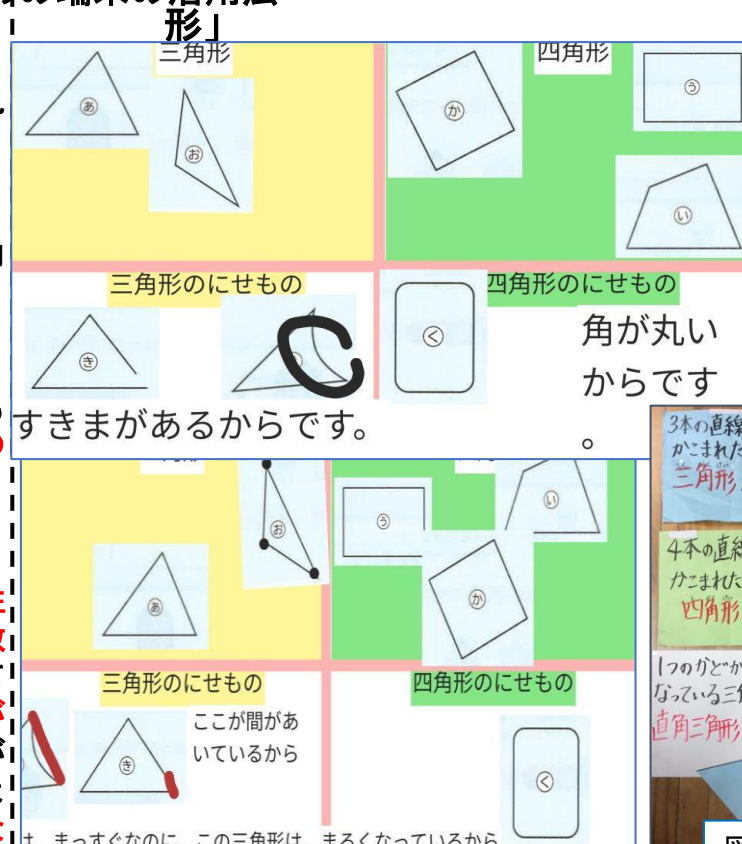
「三角形」「四角形」「三角形のにせもの」「四角形のにせもの」に分類→**根拠となる部分に印・説明に必要なキーワードの書き加え**

◇児童に学習を委ねる場面

児童の思考が視覚化され、**個別の理解度を把握・支援の必要性がある児童を見取り支援を入れるタイミングを図る**。また、**数学的な根拠**（○本直線・囲まれている等）の**視点**で交流できているか追跡した。**学級内で半数近くの児童が迷っている図形があったので、全体に問い返し図形の定義を理解させる必要性があると捉えた。**（「三角形のにせもの」には、「それがどのようなになっていたらよいか」）**問い返すことで全体の理解につな**

◇課題

ICTを活用することで自分の考えをうまく説明できない児童も指さすことで伝え合うことができたが、図形の定義となるキーワードを用いて説明できるまでには至っていない。「それってどういうこと？」等問い返し、算数用語に置き換える作業（図と言葉をつなぐ）を繰り返していく必要がある。



図形の定義